

令和7年度

丹沢大山ボランティアネットワーク
活動報告書

目 次

I 丹沢大山ボランティアネットワーク事業報告

- 1 水質調査
- 2 瓦版の発行
- 3 講演会・交流会

II 会員団体活動掲示板

神奈川県勤労者山岳連盟
NPO法人 丹沢自然保護協会
NPO法人 みろく山の会
NPO法人 野生動物救護獣医師協会神奈川支部
町田グlaus山の会
NPO法人 丹沢自然学校
NPO法人 野生動物救護の会
丹沢環境推進会議
一般社団法人 森里 (MORI)

III 世話人会の活動報告

I 事業報告

1 水質調査

2 瓦版の発行

122号、123号、124号、125号

3 講演会・交流会

※ 瓦版（124号）参照

令和7年度水質調査結果一覧 <上段:検査項目 中段:単位 下段:水質基準(参考)>

調査地点	採水日	硝酸態窒素及 亜硝酸態窒素											水場周辺の状況				気象の状況			
		一般細菌	大腸菌	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	塩化物イオン	有機物	pH値	味	臭気	色度	濁度	ゴミ散乱	野外排泄	トイレ	水場種類	天候 当日	天候 前日	気温 ℃	水温 ℃
		CFU/ml	-	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	-	-	-	度	度								
1 半原越付近	5月28日	0	不検出	0.004未満	0.7	1.9	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	22	14
2 日向林道起点水場	5月3日	0	不検出	0.004未満	0.6	1.8	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	雨	14	13
3 護摩屋敷跡	5月21日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.4	0.3未満	8	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	22	13
4 堂平沢	5月21日	46	検出	0.004未満	0.1	1.0	0.3未満	8.3	-	正常	2	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	20	14
5 原小屋平水場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 黍殻山避難小屋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 大山 弘法の水場	5月23日	2	不検出	0.004未満	0.5	1.8	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	17	13
8 春嶽湧水	5月23日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.7	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	19	14
9 葛葉の泉	4月25日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.8	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	あり、約20m 下流	湧水	晴	晴	25	16
10 竜神の泉	4月25日	0	不検出	0.004未満	0.6	1.6	0.3未満	7.5	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	25	16
11 後沢乗越水場	5月24日	10	検出	0.004未満	0.2	1.1	0.3未満	8.2	-	正常	1未満	1	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	16	13
12 二俣の水場	5月24日	66	検出	0.004未満	0.3	1.0	0.3未満	8.1	-	正常	1未満	1	なし	なし	なし	沢水	曇	曇	16	13
13 大倉高原山の家水場	6月7日	35	検出	0.004未満	0.4	1.4	0.7	7.4	-	正常	1	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	曇	曇	23	18
14 塔ノ岳水場	6月7日	0	不検出	0.004未満	0.1未満	0.8	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	25	11
15 皆瀬川人遠	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16 西丹沢県民の森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 仲ノ沢法面湧水	5月18日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.1	0.3未満	8.1	正常	正常	1未満	0.5未満	落ち葉等	なし	なし	湧水、法面 にパイプ	曇	雨	22	14
18 用木沢出合	6月5日	63	検出	0.004未満	0.3	0.7	0.5	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	26	12
19 一軒屋避難小屋前水場	6月5日	44	検出	0.004未満	0.2	0.6	0.6	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	25	12
20 犬越路ぎい道水場	5月20日	115	検出	0.004未満	0.1	0.9	0.3未満	7.9	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水、塩 ビパイプ	晴	曇	26	12
21 犬越路 日陰沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22 エビラ沢出合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※大腸菌等が検出された箇所は、味の検査は不可

No5、6、15、16、21、22…断水、水道装置故障等のため採水できず

丹沢ボラネット瓦版

2025年6月号 No.122



↑写真 秦野丹沢まつり 環境啓発テントが並ぶ R7.4.20



↑写真 丹沢案内等のパンフレット R7.4.20
山の門が開かれ、集中登山が行われた



↑写真 山開き式で安全祈願され、

令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

令和7年度総会は自然環境保全センターで4月12日(土)に開催されました。

今年度は秦野丹沢まつり等と行事が重ならないよう、例年より一週間早くなりました。

関係者の協力により出席団体が増え内容のある総会でした。皆様方の協力に感謝します。

例年のように、各団体の活動様子やボラネットへの思いなどを発表していただき、充実した総会になりました。その上今年度は一般社団法人「森里」(MORI)がボラネットへ加入し、紹介を兼ねてスライドを使用した活動報告を行い、各参加団体は希望と元気を頂きました。

今回の総会はスライドだけでは、読み取りや理解が深まらないので、総会資料は紙資料とプロジェクターの両方を使用し、総会の運営をしました。

令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

日時 令和7年4月12日(土)

場所 自然環境保全センターレクチャールーム
議事

- 1 令和6年度事業報告・決算報告(資料1. 2)
- 2 令和7年度事業計画・予算(案)(資料3. 4)
- 3 世話人の改選(資料5)

4 その他 各団体の活動報告 **以下総会資料抜粋**



↑写真 熱心に討論する総会の様子

丹沢大山ボランティアネットワーク
令和6年度(2024年度)決算報告

令和7年4月1日
会計・遠藤順一

1. 収入の部

科目	予算	決算	予実差	備考
会費	44,000	36,000	-8,000	R6年度会費
助成金	300,000	196,575	-103,425	丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査
繰越金	76,458	76,458	0	
利息	0	45	45	
合計	420,458	309,078	-111,425	

2. 支出の部

科目	予算	決算	予実差	備考
水質調査	260,000	199,295	-60,705	
講演会	40,000	0	-40,000	
世話人会運営費	60,000	30,470	-29,530	交通費、コピー代
丹沢大山自然再生委員会会費	11,000	10,385	-615	
予備費	49,458	0	-49,458	
合計	420,458	240,150	-180,308	

3. 収支

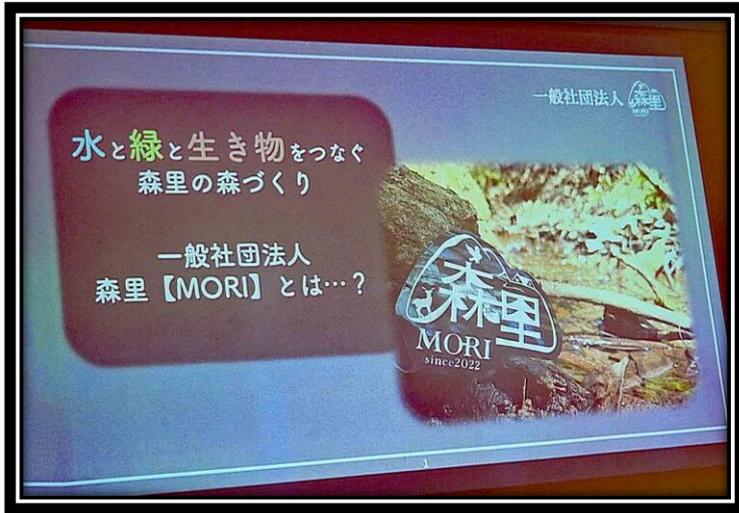
収入総額	支出総額	残高
309,078	240,150	68,928

令和6年度丹沢大山ボランティアネットワークの会計を監査しました。適正に執行されているものと認めます。

会計監査 **森島 真知子** 
 会計監査 **石山 浩恵** 

丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体一覧

	団体名
1	神奈川県勤労者山岳連盟
2	横浜わらび山の会
3	神奈川県山岳連盟
4	神奈川県自然保護協会
5	山綾会
6	四十八瀬川自然村
7	自然塾丹沢ドン会
8	丹沢ゴミ調査会
9	丹沢自然保護協会
10	丹沢ブナ党
11	みろく山の会
12	野生動物救護獣医師協会神奈川支部
13	かながわ野生動物サポートネットワーク
14	町田グラウス山の会
15	ウェインズホールディングス渉外広報室
16	伊勢原森林里山研究会
17	美登会
18	丹沢自然学校
19	野生動物救護の会
20	湘南自然観察クラブ
21	丹沢山小屋組合
22	丹沢環境推進会議
23	森里



↑写真 元気をくれた新加入団体 一般社団法人 森里(MORI) 活動紹介の様子

令和7年度事業計画(案)

- 1 総会
 - 実施日 令和7年4月12日(土)
 - 内容 令和6年度事業・決算報告及び令和7年度事業計画・予算案
- 2 世話人会
 - 実施日 年4回(6、9、12、3月)
 - 場所 神奈川県自然環境保全センター(ワーキングルーム)
 - 出席者 世話人及び自然環境保全センター自然保護課職員
 - 内容 事業の企画運営ほか
- 3 活動事業
 - (1) 水質調査
 - 実施日 令和7年5月～6月
 - 場所 丹沢大山地域 水場17箇所
 - 内容 大腸菌等10項目の水質検査
 - (2) 講演会
 - 実施日時 令和7年9月13日(土)
 - 場所 神奈川県自然環境保全センター(レクチャールーム)
 - 内容 「丹沢の成り立ちと地質的特徴」
 - 講師 神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員 山下 浩之
 - (3) 交流会
 - 実施日時・内容等 調整中
- 4 広報
 - (1) 瓦版の発行
 - (2) 活動報告書の作成
 - (3) ホームページの更新
- 5 関係会議等への出席
 - (1) 緑を育む集い実行委員会
 - (2) 丹沢大山自然再生委員会

令和7年度予算(案)

資料4

1 収入の部

科目	予算(A)	前年度予算額(B)	比較(A-B)	備考
会費	46,000	44,000	2,000	世話人会の運営、丹沢大山自然再生委員会会費には繰越金を充てる。
助成金	300,000	300,000	0	丹沢の緑を育む集い実行委員会水質調査、講演会等
繰越金	68,928	76,458	▲7,530	
合計	414,928	420,458	▲5,530	

2 支出の部

科目	予算(A)	前年度予算額(B)	比較(A-B)	備考
水質調査	260,000	260,000	0	交通費補助、採水ビン送料、検定料等
講演会・交流会	60,000	40,000	20,000	講師謝金、事務用消耗品等
世話人会運営費	60,000	60,000	0	交通費補助、通信費等
丹沢大山自然再生委員会会費	11,000	11,000	0	会費、振込手数料等
予備費	23,928	49,458	▲25,530	
合計	414,928	420,458	▲5,530	

令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク世話人

	氏名	団体名	任期
代表	小林 昭五	NPO法人丹沢自然学校	令和6.4～令和8.3
副代表	小野 均	NPO法人四十八瀬川自然村	令和6.4～令和8.3
副代表	山口 寿則	NPO法人伊勢原森林里山研究会	令和7.4～令和9.3
会計	遠藤 順一	NPO法人野生動物救護の会	令和7.4～令和9.3
監事	森島 眞知子	町田グlaus山の会	令和7.4～令和9.3
監事	石山 浩恵	湘南自然観察クラブ	令和6.4～令和8.3
	栗林 弘樹	丹沢ゴミ調査会	令和6.4～令和8.3



2010年10月撮影
檜洞丸山頂にて



2024年9月撮影
林床植生の回復が見られる

↑写真 会場 神奈川県自然環境保全センター

↑写真 NPO法人丹沢自然学校の活動報告

令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会結果(報告)

1 日時・場所

令和7年4月12日(土) 13:30～15:00

神奈川県自然環境保全センター レクチャールーム

2 出席団体数 13団体

3 各議案の承認状況

すべての議案について、出席者(回答者)の過半数の賛成により、承認された。

(丹沢大山ボランティアネットワーク会則第7条第3項)

議案1: 令和6年度事業報告・決算報告

資料1.2のとおり承認

議案2: 令和7年度事業計画・予算(案)

資料3.4のとおり承認

議案3: 世話人の改選

資料5のとおり承認

4 その他(意見等)

- ・ 水質調査の調査箇所が減少してきている。水質検査結果は登山者にとっても有益な情報なので、例えば、自然環境保全センターの活動の中で採水をして頂くなどの検討してもらえないか。
採水箇所については、必要に応じて世話人会で検討する。
- ・ 今回、一般社団法人 森里様に新規入会していただいた。今後、ボラネットの活性化のためにも、是非若い団体に参加してほしいと思うので、各団体の活動の中で、若い団体とつながる機会等があれば、ボラネットを紹介し誘っていただきたい。

総会参加各団体の活動発表と御意見



↑写真 山綾会等の発表の様子



発表を聞いている様子

昨年度は各加盟団体にボラネットの今後のあり方等に対する意見をお願いし、充実した活動を発表して頂きました。今年はその成果に基づき、その後の活動の様子を報告して頂きました。各団体とも内容のある素晴らしい活動でした。その中で、お互いに今後の活動への刺激や指針を得て元気ができました。次年度の活動報告が楽しみです。

丹沢の緑を育む集い実行委員会の活動報告会

ボランティア団体助成事業の支援を受けた団体の報告会を行う。(3 団体)

NPO 法人丹沢自然学校 五十嵐氏発表

内容

エコツアーを活用した県民参加型自然再生の推進

檜洞丸に10か所の定点を定め、林床植生やブナの立枯れを追跡調査する定点撮影を行った。また、秦野市柳川生きものの里において、幼稚園の課外活動として水生生物調査、小学校3年生の授業として野生動物の痕跡探しとセンサーカメラ調査をそれぞれ実施した。

調査結果は小学校授業にて発表するとともに、柳川生き物の里において写真を常設展示した。

→写真

小学校での授業の様子や
野外活動、野生動物の活動写真



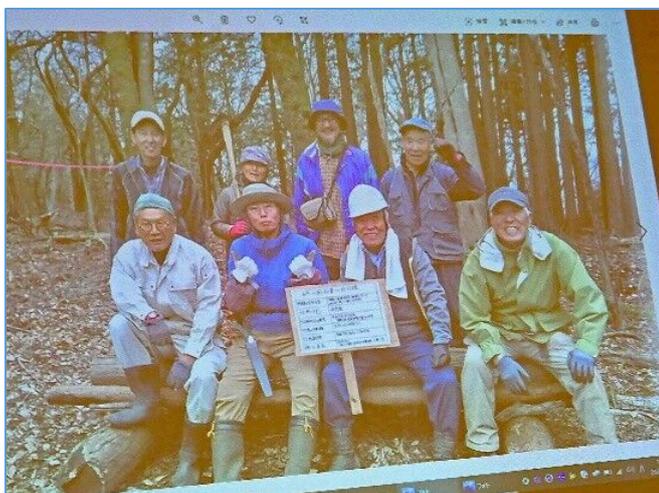
NPO 法人四十八瀬川自然村 小野氏発表

内 容

- ・秦野市蒲浦地内での里山保全再生活動
について
- ・観察路づくりや雑木の伐採等の活動報告



↑写真 小野氏の発表の様子
←里山保全活動の仲間達



NPO 法人 野生動物救護の会 遠藤氏発表

内 容

自然環境保全センター自然観察林内の
野生動物の調査研究や保護活動等を行う。

→写真
遠藤氏の発表の様子



丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

春の世附を歩く～椿丸・菰釣山からシキリ尾根を経て～

NPO法人丹沢自然学校 奥津 岳

2025年4月19日、浅瀬から椿丸を経て菰釣山(こもつるしやま)へ登り、下山はシキリ尾根を歩いて地蔵平へと、世附(よづく)の静かな山々をぐるりと周回してきました。

浅瀬の林道終点を出発し、まずは椿丸を目指します。登り始めは少し肌寒さが残っていましたが、歩を進めるにつれ体が温まり、春の空気が心地よくなってきました。

以前に歩いた道だけに、焦らず丁寧に歩くことを意識し、順調に椿丸へ。

→写真の説明

椿丸から望む、菰釣山までの稜線まだまだ遠い



小休止ののち、12年ぶりとなる織戸(おりと)峠へ向かいます。広葉樹の新芽が一斉に芽吹いており静かな尾根道が続きました。

今は人の気配は皆無ですが、かつてこの峠を越えて、地蔵平と水ノ木の間を人々が往来していたのだと思うと不思議な気がします。

大梅(おおつが)から先の登りはさすがに息が切れます。菰釣山へ至るまでの最後の急登では、何度も立ち止まりながら、慎重に歩を進めました。

無事登頂し、山頂ではコーヒーと菓子パンで一息。

→写真の説明

静けさに包まれた織戸峠



下山に選んだのは、今回初めて歩くシキリ尾根。

明るく開放的なブナ林が続き、季節を変えて再訪してみたいと思う美しい森が続きました。

地蔵平のお地蔵様に感謝を伝え、そこから大又沢林道を経て、夕暮れ前には浅瀬に無事戻ることができました。

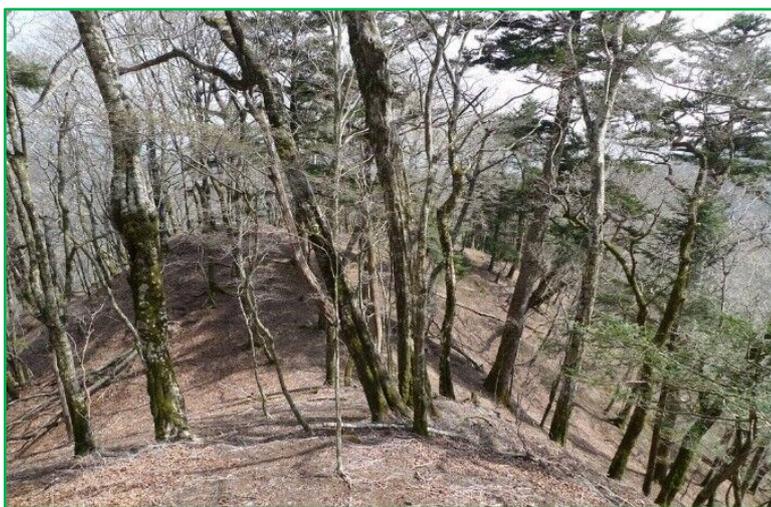
→写真の説明
菰釣山の山頂にて
富士山は逆光と雲の中



世附の山々は、派手な展望や観光地的要素は少ないですが、その分、山と森そのものと丁寧に向き合える場所だと思います。

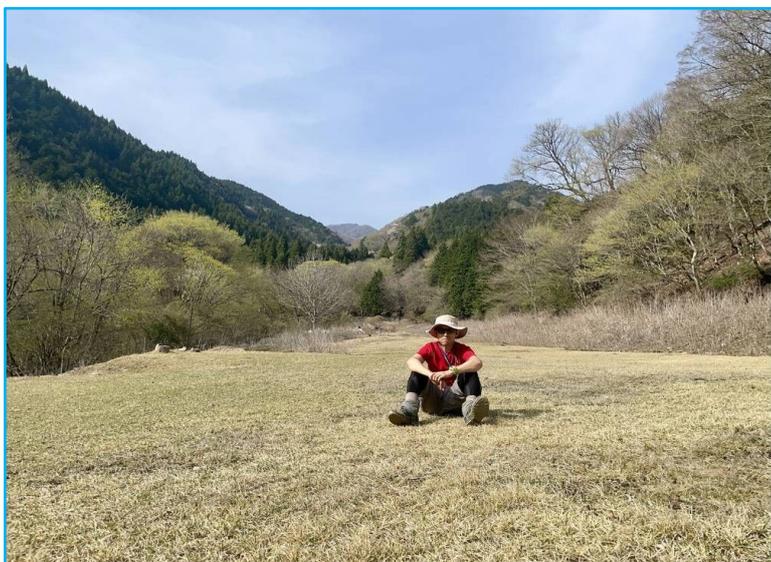
季節を変えてまた歩きにきたい…そう思わせてくれる、充実した一日でした。

→写真の説明
シキリ尾根は、とても歩きやすい尾根でした。地蔵平で小休止



→写真の説明
かつては小学校の分校もあった集落でしたが、今は無人の広場になっている

地蔵平から大又沢林道を歩いて浅瀬に戻りました。



丹沢ボラネット瓦版 2025年6月号(通巻122号)6月20日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

丹沢ボラネット瓦版

2025年9月号 No.123



照が崎海岸のアオバト

「大磯のアオバトと丹沢」（町田グラウス山の会 森島 眞知子）

7月末、大磯の海岸にやって来るアオバトを見に行った。アオバトは全体が緑色の羽色の中型のハトで、全国の広葉樹林で繁殖しているが、毎年5月から10月頃までの早朝と夕方、大磯の照が崎海岸に集団で飛来することが知られている。全体がオリーブ色のメス、肩がブドウ色のオス、今年生まれたヒナもいる。群れを作って岩礁の上を飛び回り、波が打ち寄せる岩場に降りる。そして岩場の窪みに溜まった海水に青色のくちばしを浸けて、吸い込むように飲む。その理由は、アオバトの主食である果実（サクラ、ミズキ、ヤマブドウなど）には、カリウムが多く含まれているがナトリウム分がほとんど含まれていないので、海水を飲むことで体内のカリウムとナトリウムのバランスをとり、果実からの栄養分や水分を体に吸収しやすくするためではないかと言われている。

ではその果実はどこで調達しているのか？照が崎海岸でアオバトの糞を採取し、中に含まれている種子植物の種類を調べたところ、この周辺では丹沢の標高1000m以上にしか分布しないミヤマザクラの種子が多かった。ミヤマザクラは他のサクラ類より遅い5~6月頃、総状の花序に上向きに花をつけ、夏に赤黒い実（サクランボ）に熟す。このことからアオバトは大磯の海岸から20~30km離れた丹沢山地から飛んできていることが証明され、繁殖も丹沢山地で行われていることが分かったという。

照が崎海岸は、アオバトの集団海水吸飲飛来地として、神奈川県天然記念物に指定されている。一方、冬になるとアオバトたちは西日本に移動し、主にアラカシやシラカシ、ブナなどの実（ドングリ）を食べる姿が、京都御苑などで見られるという。



アオバト



ミヤマザクラ



令和7年度水質調査の報告

報告者 丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会

結果概要

- 調査か所数 22 か所
(うち6か所は断水・水道装置故障等のため採水できず、中止)
 - 一般細菌検出箇所 1 か所
犬越路ずい道水場
 - 大腸菌検出箇所 7 か所
堂平沢、後沢乗越水場、二俣の水場、大倉高原山の家水場、用木沢出合、一軒屋避難小屋前水場、犬越路ずい道水場
- ※ 上記の一般細菌や大腸菌が検出された水場はもちろん飲用に適しません
が、一般細菌や大腸菌が検出されなかった水場についても、必ず煮沸等を行ってから利用してください。

丹沢大山水質調査とは

「丹沢大山水質調査」は2004年度頃から実施され始め、当初は丹沢大山総合調査の一環として行われていました。その後、丹沢大山ボランティアネットワークが引き継ぎ、現在は丹沢大山ボランティアネットワークが「丹沢の緑を育む集い実行委員会」との共催として事業を継続しています。

調査場所は、丹沢を訪れる人が比較的に利用する可能性がある水場22か所を選んでいますが、そのうち6か所は今年度、断水・水道装置故障等により採水できず実施していません。

今回の水質調査には、以下の丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体の皆様に取り組んでいただきました。お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。

- ・ 丹沢自然保護協会
- ・ 伊勢原森林里山研究会
- ・ 野生動物救護の会
- ・ 四十八瀬川自然村
- ・ 丹沢自然学校
- ・ 神奈川県勤労者山岳連盟

調査項目・検出基準

我々が普段から口にしている水道水には、水質基準を定める水道法という法律があり、水質検査として51の項目が規定されており、その中でも「給水施設内で汚染の進むおそれがある項目」として11の省略不可項目が定められています。

今回、採水・検査した湧水などは給水施設ではありませんが、それに準ずるものとして、厚労省の水質基準項目・基準値を参考にして調査を実施しました。以下に水質検査11項目の概要を説明します。

① 一般細菌（基準値；100CFU/ml以下）

一般細菌という名前の細菌があるわけではなく、いわゆる雑菌のことで、河川や土壌、空気中や体内などに広く存在し、病原性のないものがほとんどです。しかし汚染された水ほど一般細菌が多く含まれるため、水の汚染状況を知る目安になります。

CFU/mlという単位は、1mlの試料を培地で培養した結果、出来た集団数（Colony Forming Unit）を表します。

② 大腸菌（基準値；検出されない）

大腸菌は人や動物の腸内に存在する菌で、ほとんど無害ですが、中には病原性を持つものもあり、人や動物の排泄物や土壌生物による汚染の指標となるものなので「検出されない」ことが水質基準として定められています。

③ 亜硝酸態窒素（基準値；0.04mg/l以下）

これは土壌中の肥料の窒素分や植物体内のたんぱく質に含まれる窒素分が変化したもので、メトヘモグロビン血症などの健康リスクを引き起こす可能性があります。

④ 硝酸態窒素および亜硝酸態窒素（基準値；10mg/l以下）

水中に溶けている硝酸態窒素と亜硝酸態窒素を合計して検査しています。硝酸態窒素は様々なところに広く存在していますが、生活排水の混入などにより基準値をこえるとメトヘモグロビン血症につながることもあるので注意が必要です。

⑤ 塩化物イオン（基準値；200mg/l以下）

水中に溶けている塩化物の量を示したもので、海水中の塩分と同様のものです。海が近い場合やし尿が混入した場合に高濃度に検出される場合があります。

⑥ 有機物[全有機炭素(TOC)]の量（基準値；3mg/l以下）

水中の有機物を構成している炭素の量を表したもので、藻などの微生物繁殖、汚物混入などが原因となり、水に有機物が多く混入すると水質は悪化します。

⑦ pH値（基準値；5.8以上8.6以下）

水が酸性かアルカリ性かを示す数値で、水質の変化を評価する際に重要です。

⑧ 味（基準値；異常でないこと）

⑨ 臭気（基準値；異常でないこと）

人の味覚と嗅覚で感知できる、味と臭気を検査したものです。異味異臭があるという事は、水の異常を知る危険信号になります。

⑩ 色度（基準値；5度以下）

水の黄褐色の着色度合いを調べる検査で、有機物による懸濁や、鉄・マンガンなどの金属が多く含まれることによって、値が高くなります。

⑪ 濁度（基準値；2度以下）

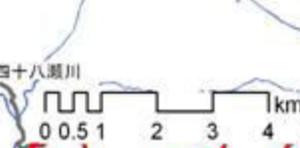
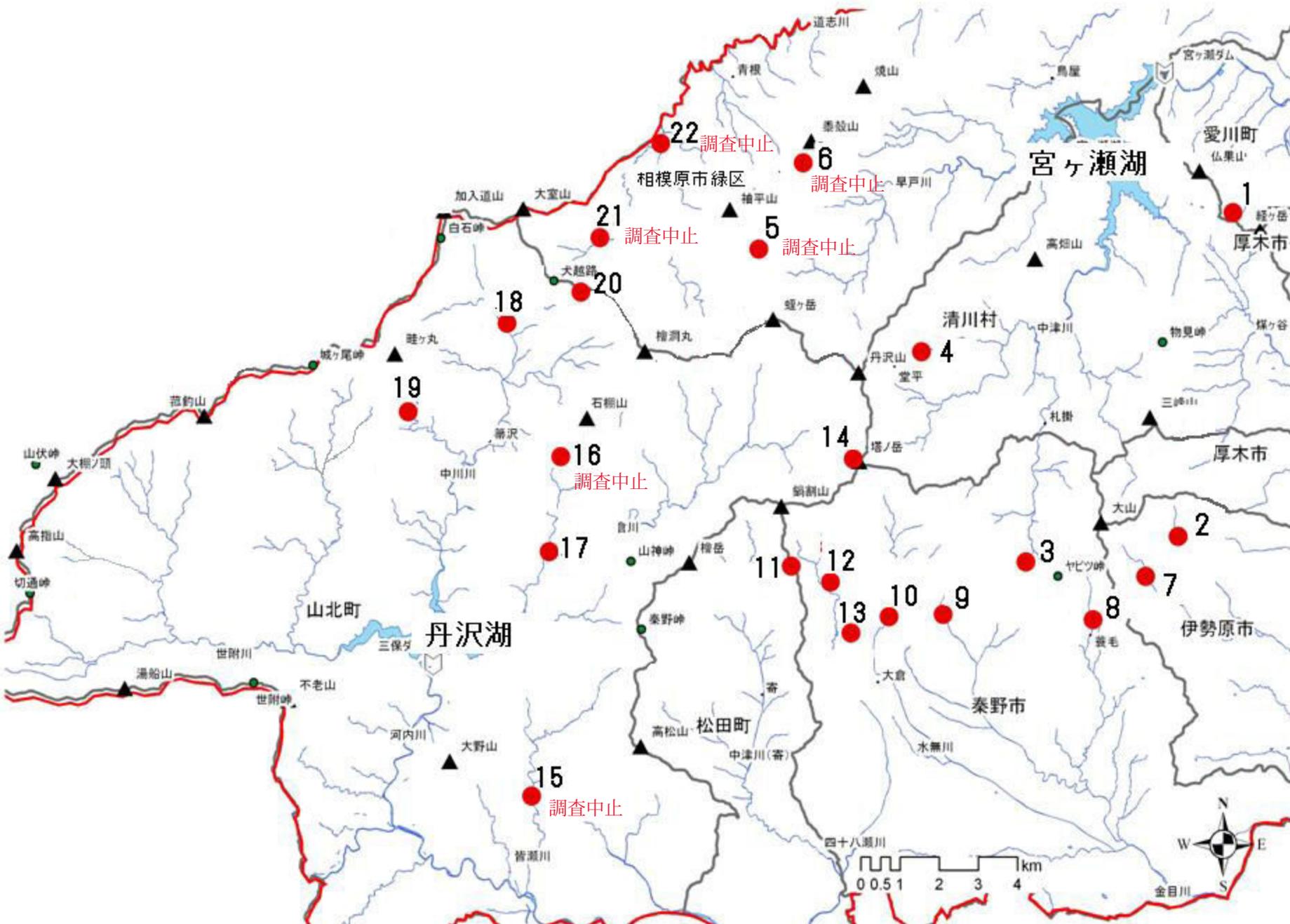
水の濁りの度合いを調べる検査で、水の濁りはその原因物質によって性状が異なります。大きく分けると、褐色（鉄由来）、黒（マンガン由来）、白（亜鉛由来あるいは空気の混入）などの色に濁ります。

令和7年度水質調査結果一覧 <上段:検査項目 中段:単位 下段:水質基準(参考)>

調査地点	採水日	硝酸態窒素及 亜硝酸態窒素											水場周辺の状況				気象の状況			
		一般細菌	大腸菌	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	塩化物イオン	有機物	pH値	味	臭気	色度	濁度	ゴミ散乱	野外排泄	トイレ	水場種類	天候 当日	天候 前日	気温 ℃	水温 ℃
		CFU/ml	-	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	-	-	-	度	度								
1 半原越付近	5月28日	0	不検出	0.004未満	0.7	1.9	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	22	14
2 日向林道起点水場	5月3日	0	不検出	0.004未満	0.6	1.8	0.3未満	7.1	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	雨	14	13
3 護摩屋敷跡	5月21日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.4	0.3未満	8	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	22	13
4 堂平沢	5月21日	46	検出	0.004未満	0.1	1.0	0.3未満	8.3	-	正常	2	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	20	14
5 原小屋平水場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 黍殻山避難小屋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 大山 弘法の水場	5月23日	2	不検出	0.004未満	0.5	1.8	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	17	13
8 春嶽湧水	5月23日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.7	0.3未満	7.9	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	19	14
9 葛葉の泉	4月25日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.8	0.3未満	7.2	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	あり、約20m 下流	湧水	晴	晴	25	16
10 竜神の泉	4月25日	0	不検出	0.004未満	0.6	1.6	0.3未満	7.5	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	晴	25	16
11 後沢乗越水場	5月24日	10	検出	0.004未満	0.2	1.1	0.3未満	8.2	-	正常	1未満	1	なし	なし	なし	湧水	曇	曇	16	13
12 二俣の水場	5月24日	66	検出	0.004未満	0.3	1.0	0.3未満	8.1	-	正常	1未満	1	なし	なし	なし	沢水	曇	曇	16	13
13 大倉高原山の家水場	6月7日	35	検出	0.004未満	0.4	1.4	0.7	7.4	-	正常	1	0.5未満	なし	なし	なし	沢水	曇	曇	23	18
14 塔ノ岳水場	6月7日	0	不検出	0.004未満	0.1未満	0.8	0.3未満	7.4	正常	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水	晴	曇	25	11
15 皆瀬川人遠	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16 西丹沢県民の森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17 仲ノ沢法面湧水	5月18日	0	不検出	0.004未満	0.5	1.1	0.3未満	8.1	正常	正常	1未満	0.5未満	落ち葉等	なし	なし	湧水、法面 にパイプ	曇	雨	22	14
18 用木沢出合	6月5日	63	検出	0.004未満	0.3	0.7	0.5	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	26	12
19 一軒屋避難小屋前水場	6月5日	44	検出	0.004未満	0.2	0.6	0.6	7.7	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	流水	晴	晴	25	12
20 犬越路ぎい道水場	5月20日	115	検出	0.004未満	0.1	0.9	0.3未満	7.9	-	正常	1未満	0.5未満	なし	なし	なし	湧水、塩 ビパイプ	晴	曇	26	12
21 犬越路 日陰沢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22 エビラ沢出合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※大腸菌等が検出された箇所は、味の検査は不可

No5、6、15、16、21、22…断水、水道装置故障等のため採水できず



水質調査の結果と考察

- 今回の調査で、一般細菌が基準値（100CFU/ml）を超えて検出された箇所が1か所ありました。
 - 20. 犬越路ずい道水場 …115CFU/ml
 - ※ 昨年も基準値以下でしたが検出されましたこの他に、基準値以下ですが一般細菌が検出された箇所が5か所ありました。
 - 4. 堂平沢 …46CFU/ml
 - 12. 二俣の水場 …66CFU/ml
 - 13. 大倉高原山の家水場 …35CFU/ml
 - 18. 用木沢出合 …63CFU/ml
 - 19. 一軒家避難小屋前水場 …44CFU/mlこれらは今後の変化にも注意が必要です。

- また、大腸菌が検出されたところは7か所でした。
 - 4. 堂平沢 11. 後沢乗越水場 12. 二俣の水場 13. 大倉高原山の家
 - 18. 用木沢出合 19. 一軒家避難小屋前水場 20. 犬越路ずい道水場この中で、4. 11. 12. 18. 19 では昨年度も大腸菌が検出されています。

- 以上の結果を見ると、一般細菌の検出箇所と大腸菌の検出箇所は、かなり共通していることが分かります。つまり、一般細菌は病原性のないものが多いとはいえ、水の汚染状況の指標となると同時に、大腸菌による汚染状況の指標にもなっているということです。

- そのほかの検査項目については、どこも基準値の範囲内でした。

- 水場の水質は、季節やその年の気候、人の動き、山の植生の状態、野生動物の生息動向などに大きく左右されて変化すると思われるので、数値の変動に一喜一憂するのではなく、継続的に調査を行うとともに、**水質を悪化させる要因を減らす努力を継続する必要があります**。野生動物は先住者ですから、その行動を制御することは難しいですが、山に入らせていただく登山者、ハイカーは、少なくとも登山口でトイレを済ませる、山中では携帯トイレを使用するなどのルールを守りたいものです。

- **丹沢で沢水や湧き水をそのまま飲むことは、絶対にしてはいけません！**

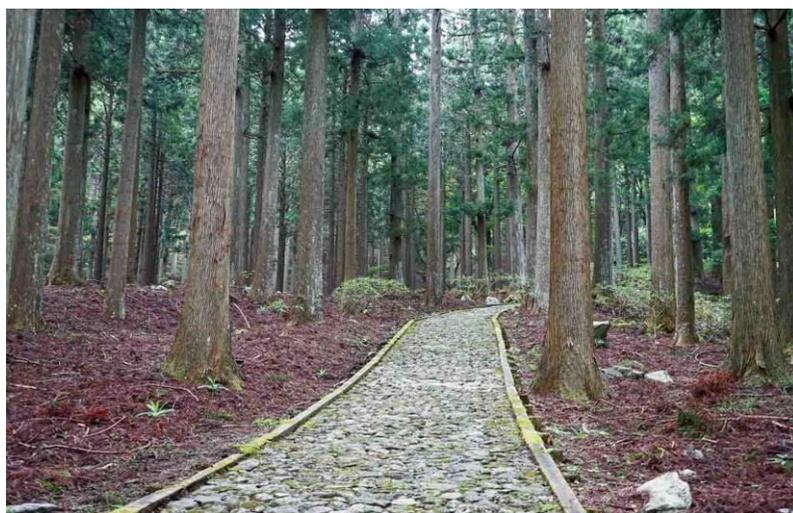
どんなに冷たく美味しそうに見えても、大変危険です。ほんのわずかでも一般細菌が含まれている水を持ち帰り常温に置けば、細菌は急激に増殖します。また冷蔵庫に入れても、時間が経てば増殖します。**沢水・湧き水は必ず煮沸してから飲んでください。**

丹沢大山ポラネット加盟団体からの投稿

令和7年度 水質調査の様子（NPO法人丹沢自然学校）



かながわ美林50選（2016.5.16）



西丹沢県民の森（2016.5.16）

NPO 法人丹沢自然学校は5月18日（日）ポラネットの水質調査採水活動に参加をしました

担当場所は調査番号16 西丹沢県民の森と調査番号17 仲ノ沢法面湧水の2カ所です。

残念ながら16 西丹沢県民の森は台風等の被害により水道施設が故障のため採水が出来ないので中止しました。

○ 西丹沢県民の森のご案内

（玄倉林道→仲ノ沢林道分岐（小川谷出合）→西丹沢県民の森（約徒歩1時間10分））

西丹沢県民の森の水道施設周辺の様子（2016.5.16）

柵内にはヤマツツジ赤色が目立ちました。



- ① 西丹沢県民の森は平成元年神奈川美林 50 選に指定されました。
- ② 西丹沢県民の森には大正の森が含まれているので別名大正の森とも言います。



大正の森説明文 (2013. 5. 30)

<大正の森の説明文の要約>

このスギの森は大正4年(1915年)に植えられたもので、面積は15ha程あります。長さ四十cmくらいの小さな苗木を下流の村から、馬の背や人の肩によって運ばれ、一本ずつ植えられたものです。現在に至るまで雨や風の自然の試練の前にも負けず元気に育ち人工の美しい森となりました。

大正12年の関東大震災には、周りの山は皆、削り落ちたと言われているがこの森は残りました。

木材の生産だけではなく土砂の流出の防止、水源の確保や人の保健に役立っています。

大正時代の人々のご苦勞を忍び、自然が息づく県民の大きな財産として子や孫に引き継いで行くのが、この森の使命です。

○ 仲ノ沢法面湧水水質調査(採水)の様子

(玄倉林道→仲ノ沢林道入り口ゲート(小川谷出会)→立間大橋→レッコの水→仲ノ沢法面湧水(約50分))

玄倉林道入り口から30分歩くと仲ノ沢林道入り口へ到着します。川の方へ下るとすぐに立間大橋が見えます。橋の名前は汚れているので見えないです。

この橋からの小川谷の渓谷、風景は見応えがあります。典型的な西丹沢らしい景観です。コバルトブルー、清流、トータル岩深い峻しい渓谷、豊かな緑が体感できます。



西丹沢県民の森指示板と仲ノ沢林道入り口ゲート(鎖)



橋上から見た小川谷渓谷(トータル岩が目立つ)



立間大橋

立間大橋から5分位歩くと、林道脇から多量の湧水がこんこんと流れ出る場所がありました。「レッコの水」と呼んでいます。

湧水が多い時期は林道へ流れ出ている時期もあります。仲ノ沢の法面湧水より自然なままなので登山者等の訪問者を引きつけます。



「レッコの水」の湧水



イワタバコとシダの仲間



仲ノ沢林道に流れている湧水 (2012. 6. 7)

西丹沢県民の森まで、車が入る頃は水くみが目的の人で賑わっていました。又湿地を好むイワタバコやシダやコケ等が見られ、植物観察にも良いコースです。

「レッコの水」から5分~6分歩くと仲ノ沢法面湧水へ到着します。ビニールパイプから湧水が勢いよく出ています。ただ簡単な小さな施設なので会話しながら歩いていると見落としがちです。



無事採水が完了

仲ノ沢林道法面湧水の様子

ボランティアで協力参加ありがとうございます

丹沢ボラネット瓦版

2025年11月号 No.124



丹沢山塊の核心部（塔ノ岳付近から）

令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会

9月13日、自然環境保全センターにて、講演会・交流会を開催しました。

今年度は、午前中の講演会に続いて、昼食をとりながらの団体紹介・交流会を行い、午後は同センターの自然観察園（野外施設）等で自然観察会を計画しました。また、参加者の交流のため、団体名とお名前（ニックネーム可）を書いた名札を付けていただきました。

講演会には、ボラネット各団体など32名が、また、交流会と観察会には、29名が参加。厳しい残暑が前日から少し緩んで、前日から断続的に小雨降る天気でしたが、午後の観察会も雨に降られることなく、予定通りに行うことができました。

講演「丹沢の成り立ちと地質的特徴」

県立生命の星・地球博物館学芸員で、企画情報部企画普及課長の山下浩之さんを講師にお迎えし、丹沢の成り立ちと地質的特徴というテーマでご講演いただきました。

山下さんは、主に岩石のでき方に関する調査や研究を行っており、箱根、伊豆、丹沢から南フィリピン海の深海底などをフィールドに調査活動を行っています。また、お城の石垣など石造りの歴史的な建造物を岩石学的に解析し、どこの火山から運ばれてきたものなのか、といった研究も行っています。



山下浩之さんによる講演

講演では、丹沢の活断層等を観察した写真や動画を交え、最新の研究成果を解りやすく知らせて頂きました。

最初に、丹沢の成り立ちにも大きく関係する「プレートテクトニクス」についてお話がありました。

大きな地震のニュース等で耳にすることがあるプレートテクトニクス。地球の表面を覆う十数枚の薄い板をプレートといい、これが海嶺と呼ばれるところから生まれ、海溝と呼ばれる溝で他のプレートの下に沈み込みます。日本は、狭い国土が複数のプレートから構成され、特に列島の南とさらに東からそれぞれ別のプレートが沈み込むという世界的にも珍しい地域とのことです。

海溝で沈み込んだプレートは深さ100kmに達するとマグマを生成し、地上には火山が列状に生まれます。プレートの動きが丹沢の複雑な地形や多様な地質を生んだといえそうです。



動画紹介（足柄層群）

次に、岩石を、その成り立ちから大きく3つに分類し、それぞれの特徴などについて説明がありました。砂や泥、火山灰や生物遺骸が堆積した堆積岩、マグマが固まった火成岩、堆積岩や火成岩が熱や圧力で姿を変えた変成岩があり、これらは、それぞれ長い時間のなかで、ある岩が溶けてマグマになって冷えれば火成岩になり、ある岩が風化して粒上になって海に堆積すれば堆積岩になり、といった形で「循環」(岩石循環)しているとのこと。

丹沢は、その複雑な成り立ちから、これら3種類の岩石のそれぞれについて、成分や成り立ちなどが異なる複数の岩石を観察することが出来るそうですが、丹沢を特徴づける岩石として3つの岩が紹介されました。

もっとも多い岩が、グリーンタフに代表される凝灰岩で、火山灰が海底に積もってできたものが隆起して陸上に現れたものです。緑色以外にもももとの火山灰の色の違いから様々な色のものがあるようです。

2つ目は、変成岩で、大理石など数種類が見られます。丹沢の変成岩は、若い岩石にマグマが影響してできた、世界的にも最も新しい部類の変成岩だそうです。

3つ目は、西丹沢の河原などでよくみられるトータル岩です。理科の授業でも習う「ゴマ塩模様」の花崗岩の仲間ですが、一般的な花崗岩とは鉱物が異なり、丹沢を特徴づける岩石です。日本地質学会が、「神奈川県産の岩石」としてトータル岩を選定しています。

続いて丹沢の生い立ちのお話に移ります。

プレートの移動に伴って丹沢が本州に衝突したのが550万年前とのこと。それよりはるか前の1700万年前から850万年前まで、海の中に堆積したものに由来したものが丹沢の堆積岩の材料で、サンゴや貝や火山活動に起因するものが観察できるそうです。

丹沢と本州の衝突後、丹沢の地下にマグマが入り込み、これらが冷えて火成岩ができ、堆積岩を変成させて変成岩が生まれ、さらに伊豆半島の衝突(250万年前から100万年前)により丹沢山地は激しく隆起し、その後、雨等による浸食を受けて今の姿になったとのこと。



岩石標本



標本を囲む参加者

その後もプレートの沈み込みで大磯丘陵が出来たことで南側に流れる河川の流路が変わっています。また、山北町皆瀬川ではプレート境界にあたる断層を現地で観察することができます。

ちなみに、神奈川県で最も古い地層は丹沢のさらに北～北東側にある小仏層群などの地層で、1億年から3千万年前のものとのこと。

想像も及ばない長いスケールのお話で気が遠くなりそうですが、多様な丹沢の岩石のなかには資源となったものもあり、良質な砥石であった戸川砥や、建築や石造物などに使われた七沢石などがあります。

山下さんには、会場には様々な岩石を用意していただき、休憩時間や講演後には標本を囲んで、講師に質問をする様子も見られました。

交流会・自然観察会

昼休みを兼ね、昼食をとりながら、参加団体の紹介を行いました。それぞれ、団体の個性が伝わる発表でした。

午後の自然観察会では、かながわフィールドスタッフクラブの小松講師、横山講師、小林講師、小野講師の4つの班に分かれて、センター周辺と自然観察園、池、等を観察しました。

植物や動物の名前を知ることながら、お互いに会話をしながら、見る、嗅ぐ、触る等五感を大切にする観察会でした。

雨上がりでしたので、ヤマビルがたくさん活発に活動しており、少し気をそがれる面もあり、刺された方もいたようですが、充実した、記念に残る観察会となりました。



交流会の様子



観察会講師紹介、出発！



自然観察会



自然観察会の参加者で記念撮影

参加者の声

参加された皆さんからの声をご紹介します。

- ・地学的に見て丹沢が魅力的な場所だということが分かった。丹沢は外国人も含めて県外からの登山者が多いので、このような魅力を知っていただく機会になるとよい。
- ・新しい研究成果を紹介して頂き満足した良い講演会でした。
- ・登山では山にしかない珍しい植物を見に行くことが多いが、身近な里山でも様々な生き物がいて自然観察を楽しむことができることが分かった。
- ・どの団体も高齢化が進み活力がなくなっていく、それぞれの団体の特徴を生かした交流ができるとよい。

第26回丹沢大山自然再生委員会総会への参加報告

丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会



↑写真 総会の様子

第26回丹沢大山自然再生委員会総会

日時：令和7年度7月3日(木)

13:00～16:00

会場：神奈川中小企業センタービル

14階 多目的ホール

1 議案

- 第1号議案 令和6年度事業報告
- 第2号議案 令和6年度決算報告
- 第3号議案 令和6年度監査報告
- 第4号議案 役員・幹事・監事の改選
- 第5号議案 令和7年度事業計画(案)
- 第6号議案 令和7年度予算(案)
- 第7号議案 令和7年度丹沢大山自然再生活動報告会について



↑調査専門部会の活動報告の様子

第1号議案～第7号議案のすべては全会一致で可決されました。

第4号議案について(県民事業部会長の交代)

小林氏(丹沢大山ボラネット)から

→ 滝澤氏(かながわ森林インストラクターの会)への交代

第7号議案について(内容等は今後、検討修正されていきます)

今年度の自然再生活動報告会はさがみ自然フォーラム(NPO 法人神奈川県自然保護協会・厚木市)と連携して開催する。

日時:令和8年2月15日(日) 午後(予定)

会場:アミューあつぎ ※さがみ自然フォーラムの会場と同じ建物内
オンライン併用を検討している。

共催:神奈川県、厚木市、さがみ自然フォーラム運営委員会

ねらい:ネイチャーポジティブの流れを背景とした、地域生態系の把握、
自然災害とNbS、次世代育成等を考える事

内容:地域の取り組みに関する報告、テーマに関連した講演、
パネルディスカッション等

2 報告事項

(1) 専門部会からの報告

ア 事業計画・評価専門部会
の活動報告

第49回、第50回、第51回
部会をオンライン会議等で行な
った。

内容は助成金研究成果発
表会や丹沢大山自然再生基
本構想等の改訂について検討
した。



↑ワールドフェスタ横浜 2024の様子

イ 県民事業専門部会の活動
報告

啓発検討チーム等で丹沢まつ
り、ワールドフェスタ横浜 2025、
厚木環境フェア等の出店計画
や副読本「私たちの暮らしと丹
沢」の改訂内容検討を行った。

→丹沢まつりの様子



ウ 調査専門部会の活動報告

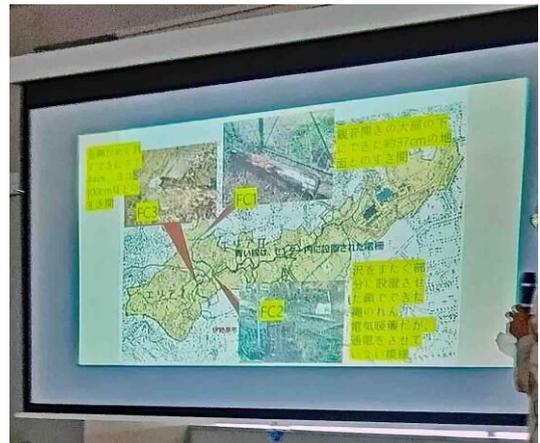
助成研究課題の二研究報告

① 野生動物救護の会

電気柵によって隔てられた二つのエリアに生息する野生動物の痕跡調査と自動撮影カメラを用いた観察の中間報告をした。

→写真

野生動物救護の会の発表スライド



② 神奈川工科大学カゲロウDNA研究会

シロタニガワカゲロウ2系統の分布状況の解明を報告した。

3 次期「丹沢大山自然再生計画」に向けた意見書への班討論

一班 次期計画における自然再生の方向性について(総論)

ワークショップ的方法を取り入れ討論をした。

二班 次期計画の具体的方策について(各論)

① ブナ林の再生

② 地域の再生

等の話し合いをした。

「討論時間が短かった」ように感じられた。

→写真 班討論の様子



感想

最近ネイチャーポジティブや NbS 等聞き慣れない言葉が出てきて戸惑っているが刺激になりました。

全国のクマ騒動に見られるように、生物の多様性、豊かな自然、人間生活との共存等大切な問題が含まれています。力を合わせ、英知を出し合い取り組みたいです。内容のある充実した良い総会でした。

丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

神奈川県勤労者山岳連盟 2025年第46回丹沢クリーンハイク 大野山(リベンジ)クリーンハイクレポート

神奈川県勤労者山岳連盟

- ◇日時：10月19日(日)
- ◇参加者：神奈川県勤労者山岳連盟
自然保護委員会5名、小田原ナー
ゲル山の会11名の計16名



- ◇山行概要；
JR松田駅08:00集合
⇒(ナーゲル会員乗用車に分乗)
⇒つぶらの公園08:25着
準備完了後A・B2コースに分かれクリーンハイク開始8:50
→(BコースはNPO共和のもりへ車で移動し、そこからスタート)
→山頂到着10:40~11:00(四阿にて雨宿りを兼ね昼食休憩)
→山頂周辺のゴミ拾い後下山開始11:20
→つぶらの公園13:15頃着、計量・写真撮影後13:35頃解散
⇒JR松田駅14:00頃着

- ◇成果；可燃ごみ8,8kg、不燃ごみ(古タイヤ6kg含め)11,7kg

今年の県連主催第46回丹沢クリーンハイクは、残念ながら悪天予報のため中止となってしまった。そこで、クリーンハイク担当のI氏中心に当会単独でリベンジクリーンハイクをやるという企画が持ち上がり、夏ごろから計画を温めてきた。開催直前、I氏が腰を痛めて参加できなくなるというアクシデントが発生したが、準備はほぼ整っていたので事務局が担当を代行し実施することになった。



当日の天気予報はとても微妙で一時的な降雨は避けられそうもなかった。中止にしてもおかしくなかったが、コース上に危険箇所がないこと、帰り道は舗装された車道歩きが多く傘をさせること、そしてなによりもリベンジハイクも中止になってしまうのは避けたいという強い思いがあって実施を決断した。

県連自然保護委員会のメンバー5名が参加していただけることになっていたの
で、当会参加予定者を合わせると10名以上の大人数になる。そこで、従来
の谷峨側からのコースの他に山北側からの地蔵岩コースを新設してA・Bの2
コースで大野山メイン登山道のほぼ全てを網羅できるようにした。事前に参加
者をA・Bコースどちらかに振り分け、それぞれ8人ずつになるようにしてスタート。
その時点ではまだ晴れていて富士山の裾野も見えていたが、登り始めるにつれ
西の空が雲に覆われてきて、両チームが山頂に着いたとほぼ同時に雨が降り出
した。山頂には大きな四阿があったので、そこで雨宿りを兼ね早めの昼食休憩
を摂った。小降りになったのを見計らって、山頂広場のゴミ拾いを実施した後、
皆一緒に車道を辿ってつぶらの公園への帰路に就いた。標高を下げるにつれ
雨も上がり視界も開け快適に歩けるよ
うになった。



毎度のことだが、ハイカーのマナーは良
くなってきていると感じる。故意に捨て
たゴミは少なく、うっかり落としてしまったと推測される小片ゴミが多い。一方、山
頂付近まで車で来た人達のマナーは残念ながら良いとは言えない。一部の人
達だけであろうが吸い殻のポイ捨てや空き缶の投げ捨て等がまだまだ無くならな
い。16人の目が光っているので、さすがにゴミを見過ごすことは少なく、公園に
戻って自然保護委員会の方に重量を測定してもらおうと、可燃・不燃ゴミ合計
で20kg超の収穫があった。

本会を開催するにあたり、自然保護委員会からクリアファイル、缶バッチ、緊
急用ホイッスルを頂いた。この場を借りて御礼致します。また、お互いに交流を
深められ有意義なクリーンハイクになったと思っています。参加者全員の協力と
尽力に感謝いたします。

小田原ナーゲルの会事務局長 菊地記

丹沢ポラネット瓦版 2025年11月号(通巻124号)11月27日発行
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五